

一般社団法人日本看護学教育学会 ICT活用研修会 活動報告

教育活動委員会企画

新型コロナウイルス感染拡大防止を 見据えたICT活用による看護学教育の工夫

教育活動委員会委員長 嘉手苺英子

教育活動委員 ICT活用研修担当 松田安弘 山口みのり 水戸優子（録画担当）
山内豊明 前田ひとみ 栗原幸子 服部美穂

新型コロナウイルス感染症拡大の終息の見通しが立たない状況の中、看護基礎教育機関は、ICT等を活用した様々な工夫を行い、感染の防止と学生の学修機会確保に努めています。

そこで、本会は、ICT等を活用した教育を積極的に実践している教員の授業展開（講義・演習・実習）の実際を紹介し、教育の質保証に向けた授業展開のあり方を検討することを目標に研修会を企画しました。

日時：令和3年1月10日（日）13：00～16：00

方法：Zoomによる遠隔研修

講演とそれに対する質疑応答

参加費：会員 無料 / 非会員 3000円

募集人数：120名（先着順）

当日の進行：

司会 山口 みのり

＜開会挨拶＞ 日本看護学教育学会 理事長 大島 弓子

座長 松田 安弘

講演1 山内 豊明 氏（放送大学）

講演：ICT活用による演習への挑戦

質疑応答

講演2 渡邊 恵 氏（神奈川県立保健福祉大学）

講演：教育用模擬電子カルテの開発・導入と教育効果

質疑応答

講演3 相撲 佐希子 氏（修文大学）

講演：劇団員模擬患者の活用と在宅・学内の選択制による遠隔同時進行型実習の
実際

質疑応答

講演4 石川 りみ子 氏 江口 恭子 氏 石津 仁奈子 氏 （秀明大学）

講演：ICT活用による高齢者施設実習の工夫－現場とつながるオンライン実習－

質疑応答

＜閉会挨拶＞ 教育活動委員長

主催：教育活動委員会

～研修の様子～

開会挨拶
大島弓子理事長



座長
松田安弘
教育活動委員



閉会挨拶
嘉手苅英子
教育活動委員長



バーチャルシミュレータによってフィードバックの難しい呼吸音聴診のオンライン学習を可能にしました。

ICT活用による演習への挑戦 呼吸音聴診技能の習得に向けた試みから

山内豊明



教育用模擬電子カルテの 開発・導入と教育効果

神奈川県立保健福祉大学 保健福祉学部看護学科
渡邊 恵



模擬電子カルテを開発し、学内でも情報収集からアセスメントのプロセスを学びました。

劇団員に模擬患者を依頼し、在宅でも学内でも遠隔でコミュニケーションを通し、情報収集できました。

ICT活用研修会
新型コロナウイルス感染拡大防止を見据えた
ICT活用による看護学教育の工夫 2021年1月10日

修文大学看護学部看護学科 相撲(すまい)佐希子



ICT活用による高齢者施設実習の工夫 ー現場とつながるオンライン実習ー

石川りみ子、江口恭子、石津仁奈子

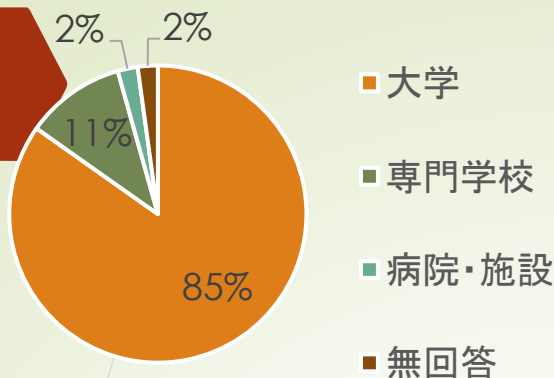
秀明大学看護学部
老年看護学分野



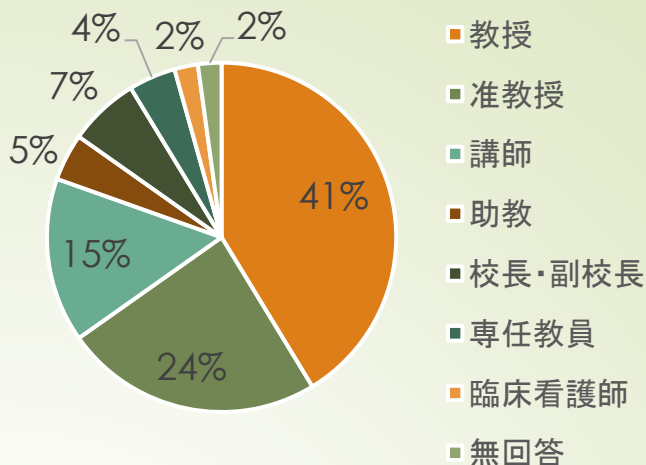
実習施設のスタッフに援助場面を録画していただき、現場で見学実習をしているような体験ができました。

参加者によるアンケート集計結果を報告します

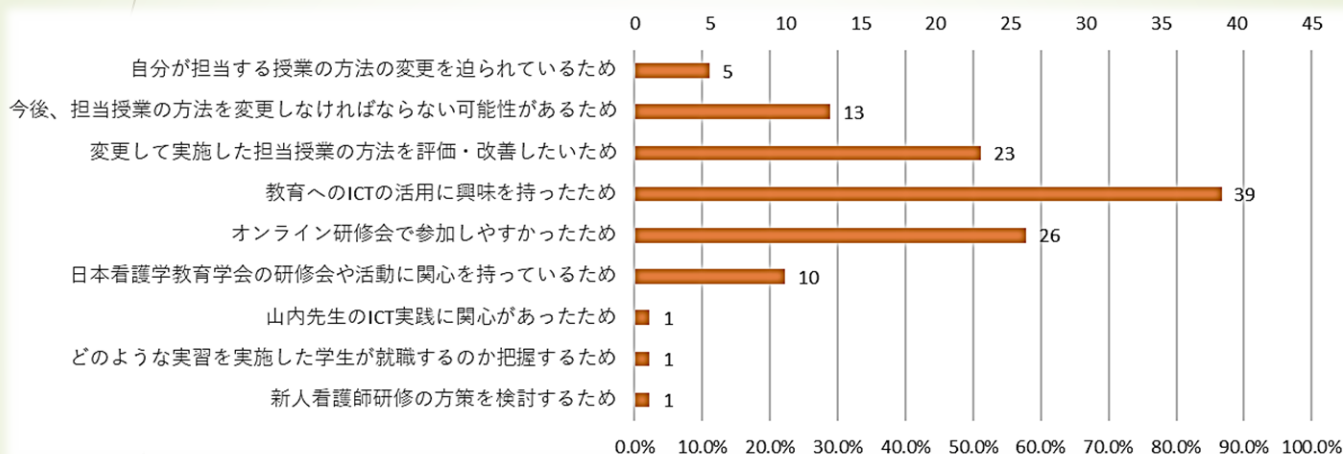
参加者の所属



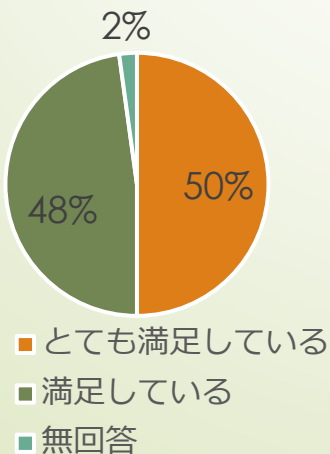
参加者の職位



今回の研修に参加したきっかけ



今回の研修の内容について



【自由記載】

- ・実践例を知ることができた。
- ・色々工夫している状況が分かり参考になった。
(7件)
- ・手元で実際の画像を見ることがリモートのよさであるため、Web Lungについてよく理解できた(2件)
- ・学習支援システムや教育用電子カルテの情報を得ることができた。今後の演習に活用したい。
- ・実践されている具体的な内容であったので理解しやすかった。
- ・劇団員さんの活用や電子カルテ等、遠隔では難しいと思い込んでいたことも可能かもしれないと感じた。道が開けたと感じた。

本研修会を通して、役に立つと思った点、ご自分の授業に取り入れたいと思った点

- ・模擬電子カルテを用いた他領域との学習内容の共有や共同開発。(8)
- ・フィジカルアセスメントの講義方法、模擬患者を看護学教育の中で取り入れる。(3)
- ・山内先生が開発中のソフト、Medi-EYEの活用を検討したい。模擬電子カルテの作成には本当に手間がかかっているの、他校の方法を知ることができ大変参考になった。
- ・教育の本質を見つめ直しながら新たな手法を取り入れ、授業を再構築したい。
- ・シミュレーター活用、電子カルテ作成、模擬患者の劇団員・教員・臨地実習指導者の活用の可能性、臨地動画撮影の交渉など、あきらめずに挑んでいきたい。
- ・電子カルテを作成・活用しながら、看護過程の展開を学内でも実施できると思ったので、研修の内容には大変満足している。しかし、その教材を作成していくためのマンパワー、費用の問題があり、1人でどこまでできるのかを検討し、実現可能な方法を模索していきたい。
- ・電子カルテ、模擬患者の活用等、効果的であると思った。評価についてもう少し聞きたかった。

本研修会の研修方法についてご意見がありますか

- ・Zoomなので参加しやすくてよかった。(6)
- ・今後も遠隔での研修会があればよいと思った。(4)
- ・移動時間がなく参加しやすい。(4)
- ・発表者が発表している画面に、テーマや氏名(所属)の記載があるとよかった。
- ・ZOOMでリアルタイムでの意見交換ができるのはとても有効だと思った。

今後、日本看護学教育学会の研修会で取り上げてほしいテーマなどがありますか

- ・安全に看護教育が行えるような取り組み
- ・教育事例の共有、電子カルテ事例の領域別の共有
- ・ICT/遠隔教育方法の継続
- ・模擬患者の育成に関する経験のある先生の話
- ・各大学の領域別実習/統合実習等の内容・方法についての情報共有・情報交換
- ・海外の完全リモートによる看護学教育の実態
- ・地域との連携の取り方
- ・母性看護学実習の遠隔教育の実際
- ・同様なテーマでの実施の継続
- ・学生のICT能力を養うという視点からのカリキュラム構築
- ・研修会ではないが、学会で電子カルテをまとめ、どの学校でも活用できるようなものを作成する、またはウェブサイトのリンク特集などを作っていただくと、自校で開発できない学校は助かります。
- ・臨床判断能力を高めるための授業の工夫
- ・ICT教育に関する先進的取り組み/研究の進め方に関すること
- ・遠隔授業で動機付けや関心を高める方法、双方向のやり取りの効果的な方法など
- ・オンライン化に伴う教育方法のアイデアを頂きたい/オンライン教育を行うための技術面での情報(たとえば多くの大学で使っているzoom, google, moodleの活用方法の工夫)の共有
- ・医療倫理(学生へ/臨床で)の教え方
- ・定期的な情報発信



アンケートへのご協力ありがとうございました。
皆様の意見を次の企画に反映していきたいと思ひます。

